






# 令和4年 **6**月の大阪森林便り

## 目次

### 今月の木の話 歴史の中に生きる桜

- (1)  国産合板が一段高 前月比 6% ロシアの禁輸影響続く
- (2)  国産材活用 東北けん引 木造公共施設、秋田 34%で首位
- (3)  公共施設の木造率、和歌山が関西首位
- (4)  単位のイロハ 南洋材丸太 ブレレトン石
- (5)  輸入合板が最高値 国産品薄で代替需要



### 今月の木の話 歴史の中に生きる桜

\*天然記念物の桜は 32 件、杉に次いで第 2 位。

●大島のサクラ株（東京都大島町）

\*伊豆大島の東北部三原山に登る道の左側、海拔 230Mの地点にあるオオシマザクラ。

\*幹回り 8M、主幹は 1.5Mより上は枯死。

\*3 本の大枝は幹状に生長し、それぞれ 2.8M、1.9M、1.3Mの幹回り。

●狩宿の下馬ザクラ（静岡県富士宮市）

\*富士山を正面に仰ぐ山麓の南西部、樹齢 800 年といわれるヤマザクラ。

\*源頼朝が富士の巻き狩りに馬をつないだ杖が活着したという伝説。

\*幹回り 8.5M、樹高 35Mといわれた大樹。

\*台風により倒木。

（2008 年発刊（社）大阪府木材連合会・大阪木材仲買協同組合発行「天然記念物 巨樹・古木」より抜粋・引用）

### (1) 国産合板が一段高 前月比 6% ロシアの禁輸影響続く

\*国産針葉樹合板の価格が一段と上がりました。

・厚さ 12 ヲ品は前月比 6%高。

\*ロシアの原料供給停止で国産丸太の価格が上昇。

・ロシアは 3 月以降、合板材料となる単板の輸出を禁止。

\*製材所と合板メーカーで、国産丸太の確保をめぐる競争。

・合板単板用杉丸太の 4 月価格は、3 月比 2%上昇。前年同月比で 4 割高。

\*3 月末の国産針葉樹合板の在庫量は、1 か月の出荷量の 3 割程度。

- ・適正水準とされる出荷量の7割を大きく下回ります。
- \*国産合板には依然として先高観があります。

(2022年5月12日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



## (2) 国産材活用 東北けん引

### 木造公共施設、秋田34%で首位

#### ウッドショックも影響 森林荒廃防ぐ

- \*主要部に木材を活用した公共施設の割合（木造率）は、2010年度の8.3%から2020年度は13.9%に上昇。
- \*日本は国土の約7割が森林。2020年の森林率は経済協力開発機構（OECD）加盟37か国で3番目に高くなっています。
- \*国は2010年、公共施設などの木材利用を促す法律を施行。
  - ・2002年に18.8%まで沈んだ木材自給率は、2020年に4割を回復。
- \*都道府県別で最も利用したのは秋田県の34.3%。
  - ・以下は岩手県、山形県、青森県が続き、東北が上位を独占。
  - ・秋田県は2020年度までの8年間に造った県営125施設のうち7割を木造・木質化。
- \*森林は二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を吸収する特徴があり、木を燃やさずに使えばCO<sub>2</sub>を長期間貯蔵できます。
- \*木材利用を促す法律は2021年に改正法が施行され、民間建築物も利用促進の対象に。

(2022年5月14日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (3) 公共施設の木造率、和歌山が関西首位

### 滋賀・奈良も地元産活用 紀州材 ガードレールにも

- \*木材を主要部に使った公共施設の割合（木造率）は、2015~2020年度の平均で和歌山県が18.3%と関西でトップ。
  - ・滋賀県、奈良県も全国平均を上回ります。
- \*関西全体で7割弱を占める森林。
- \*県土の4分の3が森林におおわれた和歌山県では、2017年度から主要観光地の幹線道路のガイドレールを順次木造化する計画。
- \*関西で木造率が最も低かったのは大阪府の6.5%で、沖縄県、東京都に次ぐ低さ。

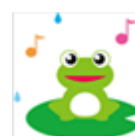
\*都市部で木造率の低さが際立つのは、防火地域や準防火地域が多く、耐火建造物であることを求められるケースが多いことが影響。

\*関西の他府県ではすべての市町村で木材利用方針を策定していますが、大阪府内の市町村の策定率は約8割（2022年4月現在）。

☆関西6府県の公共建築物の木造率

1	和歌山県	18.3
2	滋賀県	14.1
3	奈良県	14.1
	全国平均	12.9
4	兵庫県	7.2
5	京都府	7.0
6	大阪府	6.5

※単位は%、  
2015~2020年度の平均



（2022年5月14日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

#### (4) 単位のイロハ 南洋材丸太 ブレレトン石

\*南洋材丸太は、フィリピンやインドネシアが環境保護のために輸出を禁止。

・今の産地はパプアニューギニアやマレーシアの一部地域。

\*南洋材丸太の売買に使う「ブレレトン石」は体積の単位で約0.28M3。

・米国人バーナード・ブレレトンの名にちなみます。

・「石」は木材業界で伝統的な単位の石（約0.28M3）に由来。

\*ブレレトンの計測法：丸太の太い箇所と細い箇所の半径を測り、平均から体積を求めます。定着したのは東南アジアだけ。

・南洋材はまっすぐで太さが均一なため適していたのではとの説。

\*日本の木材業界ではM3で買い付けても、価格は石で交渉するのが慣例。

（2022年5月21日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

#### (5) 輸入合板が最高値 国産品薄で代替需要

\*輸入合板が一段と値上がりし、最高値を更新。

\*国産品からの切り替え需要が値上がりの要因。

\*国産合板は1年前より82%高。

\*国産針葉樹合板の4月末在庫は、2021年4月に比べ2.3%減少。

・1か月の出荷量の4割程度。

\*主力のマレーシア産は3月の輸入量が前年同月比21%減少。

\*鉄筋コンクリート造の集合住宅の4月の工事原価は前月比0.9%、木造住宅は同0.2%上昇。

（2022年5月28日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）